

1 人口減少に関するデータ分析調査の主なポイント①（全体概要）

■ 転出超過の大半は34歳までに発生 ①

- **大卒時（20-24歳）が特に多い**が、近年はその後（25-34歳）の転出超過も拡大。

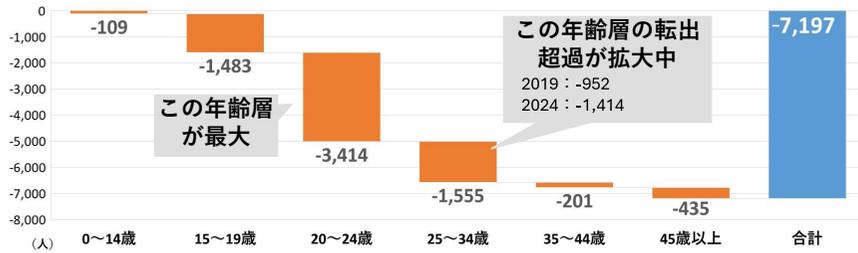
■ 県内各地から中心4市へ、4市から東京圏へ ②

- **各地域の中心市（福島、郡山、会津若松、いわき）へ人口が流入、中心4市から東京圏へ転出**。ただし、近年は中心4市以外から直接県外に転出する傾向がやや高まっています、20代でその傾向が顕著。

■ 県内で働く大卒者（特に女性）が少ない ③

- 就業者に占める大卒者の割合が全国との比較だけでなく、新潟・山形などの隣県に比べても低い。全国や隣県では大卒女性の比率が高い業種でも、**県内では大卒女性の比率が低い**（特に製造業、金融・保険業、公務）。

① 転出超過の大半は34歳までに発生



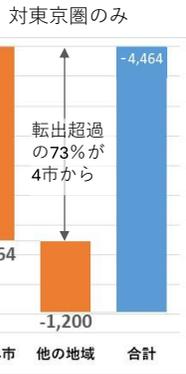
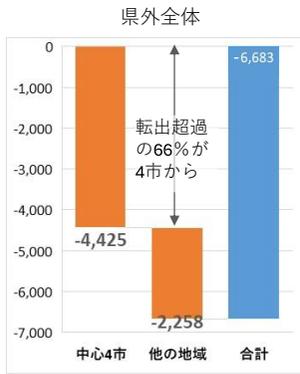
(資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」(2025年)

③ 県内で働く大卒者（特に女性）が少ない

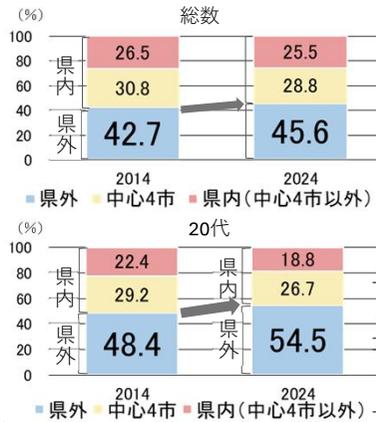
居住地	福島県に在住する25-29歳（2020年時点）			うち大卒者	
	総数（2020）	総数（2005）	残存率20年/05年	大学以上卒業者	大卒比率
福島県	15,488	22,267	69.6%	3,892	25.1%
中心4市	9,523	11,839	80.4%	2,544	26.7%
4市以外	5,965	10,429	57.2%	1,347	22.6%

② 県内各地から中心4市へ、中心4市から東京圏へ

県外転出超過数(2024年)



中心4市以外の転出先



(注) 東京圏(埼玉県、東京都、神奈川県、千葉県)

(資料) 内閣官房「住民基本台帳に基づく都道府県及び市区町村別詳細分析表」(2024年)

産業 (大卒150人以上)	福島県に在住する25-29歳(2020年)				大学以上卒業者比率(25-29歳)											
	総数		女性		総数				男性				女性			
	大卒以上	比率	大卒以上	比率	全国	宮城	山形	新潟	全国	宮城	山形	新潟	全国	宮城	山形	新潟
就業者総数	3,577	30.5%	1,434	27.3%	47.5%	40.5%	31.4%	34.7%	48.7%	41.5%	32.3%	37.2%	46.2%	39.3%	30.3%	31.9%
建設業	185	18.7%	35	22.8%	31.8%	30.0%	16.3%	22.8%	28.6%	27.4%	14.0%	21.4%	46.1%	42.5%	29.6%	31.0%
製造業	543	20.9%	109	13.8%	39.3%	28.3%	19.8%	26.8%	40.1%	30.8%	21.3%	29.5%	37.4%	23.0%	17.2%	21.4%
卸売業、小売業	430	26.1%	157	18.6%	46.1%	39.2%	28.1%	30.6%	52.6%	46.8%	34.3%	39.6%	40.4%	32.2%	21.4%	22.4%
金融業、保険業	194	68.2%	94	54.8%	82.4%	80.2%	69.9%	72.1%	92.8%	93.6%	87.0%	92.6%	76.2%	71.1%	57.8%	58.7%
教育、学習支援業	375	71.5%	222	64.3%	78.8%	76.2%	73.1%	67.1%	84.5%	78.6%	81.9%	79.0%	75.0%	74.6%	67.5%	59.8%
医療、福祉	610	31.6%	390	27.5%	42.3%	39.7%	31.5%	36.8%	51.5%	47.0%	40.4%	46.1%	39.2%	37.4%	28.6%	33.6%
公務	432	60.9%	147	63.0%	65.3%	57.4%	58.5%	61.3%	61.2%	53.8%	54.9%	56.1%	74.1%	65.0%	65.7%	71.1%

(注) 1学年当たりの人数の目安を示すため、25-29歳人口を5で除して按分している

(資料) 総務省「国勢調査」(2020年・2005年)

2 人口減少に関するデータ分析調査の主なポイント②（子育て層・大学進学者の隣県への転出）

■ 子育て層の転出超過先は、東京圏より隣県（宮城・北関東）

- 子ども（0-14歳）について、**東京圏に対して転入超過、宮城県・北関東に対しては転出超過**。単独で移動することは稀な年代であるため、子育て層は宮城・北関東等に転出していることが推測される。①
- 単身者を含む25-44歳の転出先は、20-24歳の若い年代に比べると東京一辺倒ではなくなり、北関東や宮城県に対する転出超過も多い。②

■ 大学進学による転出先は、栃木・新潟等隣県のシェアが高まっている

- 福島県から大学に進学する高校生の進学先は、**東京圏のシェアがやや下がり、宮城・新潟・栃木など隣県のシェアが高まっている**。③

① 子どもは東京圏に対して転入超過、宮城県・北関東に対しては転出超過

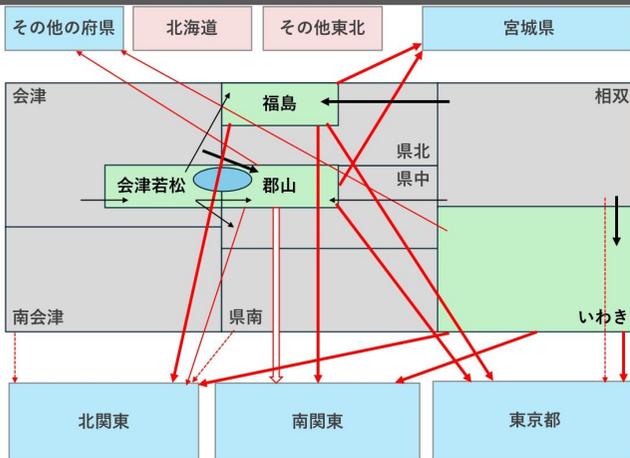
0-14歳の転出入超過数(2025年)



(注) 東北は宮城県以外(青森県、岩手県、秋田県、山形県)、北関東(群馬県、栃木県、茨城県)
 (資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」(2025年)

② 25-44歳は東京一辺倒でなく、北関東や宮城県にも転出超過

25-44歳の県内地域別転出超過先(2024年)



- 凡例
- 200人以上の転出超過
 - 100~199人の転出超過
 - 50~99人の転出超過
 - 主要4都市以外の地域の特徴的な転出超過先
 - ← 200人以上の転入超過
 - ← 100~199人の転入超過
 - ← 50~99人の転入超過

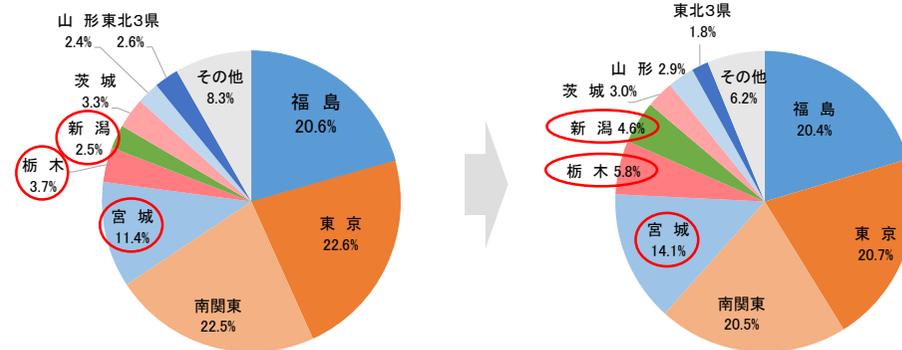
(資料) 内閣官房「住民基本台帳に基づく都道府県及び市区町村別詳細分析表」(2024年)

③ 大学進学による転出先は、宮城・栃木・新潟など隣県のシェアが高まっている

大学進学先都道府県の推移

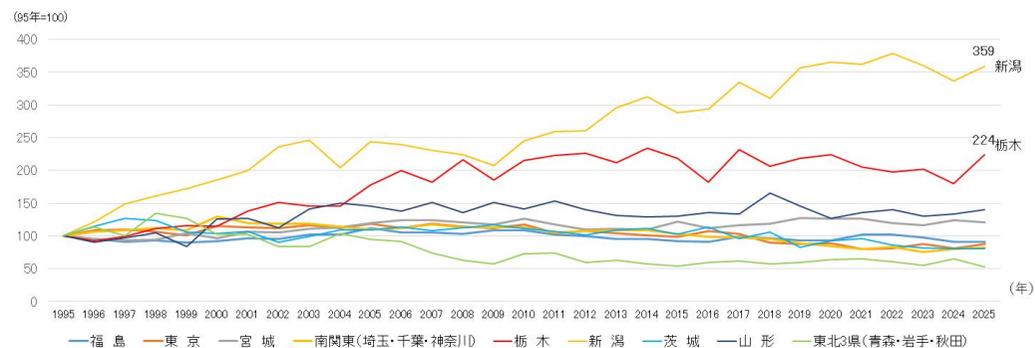
大学進学者数最大時: 8,663人(2005年)

直近: 7,044人(2025年)



(資料) 文部科学省「学校基本調査」

大学進学先都道府県の推移(伸び率)



(資料) 文部科学省「学校基本調査」

3 人口減少に関するデータ分析調査の主なポイント③（人流データ分析）

■ GPSデータを元に県内主要施設への国内在住者の来訪者数を年代別・出発地別に分析

- UIターン施策のターゲット想定層（首都圏等在住者、若年層／等）が県内において多く来訪している場所、季節、時間帯等を分析し、今後、プロモーション活動を展開する上で効果的な場所・タイミングを検討した。

■ お盆や年末年始に、県内主要駅において東京都居住者の比率が高まる

- 福島駅周辺、郡山駅周辺は、関東からの来訪者数が高施設より多い。県内における拠点性も高いことから、プロモーション（ポスター・デジタルサイネージの展開等）に適した施設と言える。①
- 福島駅周辺や郡山駅周辺、いわき駅周辺、白河駅周辺は、来訪者数自体の増減には季節性がないが、お盆期間や年末年始には、来訪者数に占める東京都居住者の比率が高まる傾向があり、帰省客等にUターンをプロモーションする上では、これらの時期が適していると言える。③

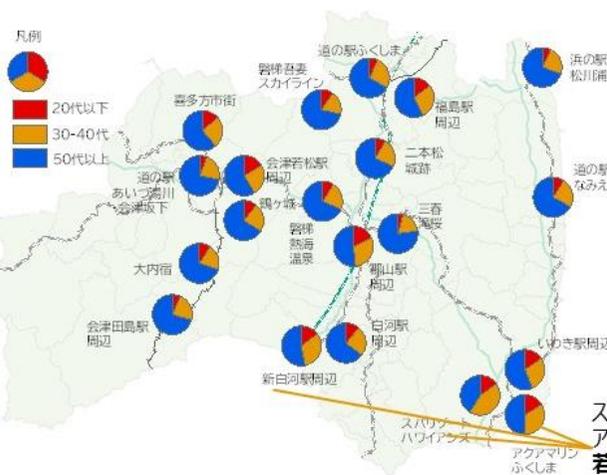
■ 来訪者に占める関東居住者・若年層の比率が高いのはスパリゾートハワイアンズ、アクアマリンふくしま、新白河駅周辺

- スパリゾートハワイアンズ、アクアマリンふくしま、新白河駅周辺は、来訪者に占める関東居住者の割合が高く、若年層の比率も高いことから、双方向的なコミュニケーションを取るプロモーション手法（イベントの開催や、移住相談ブースの設置/等）に適しているのではないかと考えられる。②③

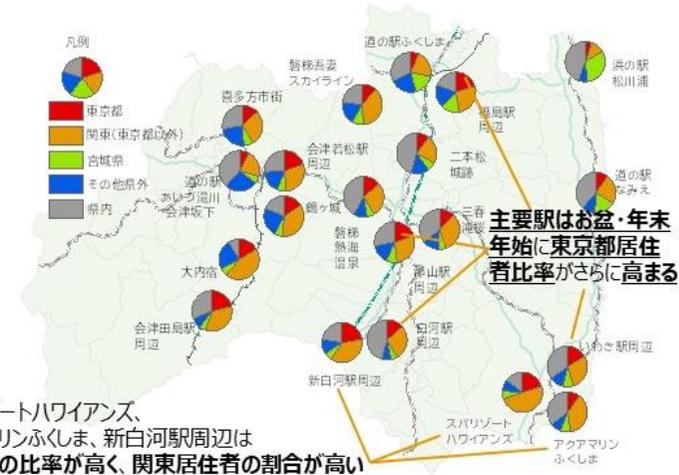
① 関東からの来訪者数



② 年代別の来訪者数



③ 居住地別の来訪者数



(資料) 人流データ：クロスロケーションズ株式会社「Location AI Platform」、地図データ：国土交通省「国土数値情報」より作成